



2022年5月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年9月30日

上場会社名 フィードフォースグループ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 7068 URL <https://feedforcegroup.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 塚田 耕司
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役コーポレートチームマネージャー (氏名) 西山 真吾 TEL 03 (5846) 7016
 四半期報告書提出予定日 2021年10月15日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

1. 2022年5月期第1四半期の連結業績（2021年6月1日～2021年8月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年5月期第1四半期	672	—	293	72.7	250	95.7	251	108.9	154	454.1
2021年5月期第1四半期	551	—	169	—	128	—	120	—	27	—

(注) 包括利益 2022年5月期第1四半期 153百万円 (164.2%) 2021年5月期第1四半期 58百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年5月期第1四半期	5.95	5.79
2021年5月期第1四半期	1.23	1.17

- (注) 1. 2020年5月期第3四半期連結会計期間より連結財務諸表を作成しているため、2021年5月期第1四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。
 2. 2022年5月期より「収益認識に関する会計基準」の適用があるため、売上高は対前期増減率を記載しておりません。
 3. EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額
 4. 当社は、2020年12月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年5月期第1四半期	6,203	2,568	40.7
2021年5月期	6,467	2,401	36.6

(参考) 自己資本 2022年5月期第1四半期 2,523百万円 2021年5月期 2,366百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年5月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年5月期	—	—	—	—	—
2022年5月期（予想）	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年5月期の連結業績予想（2021年6月1日～2022年5月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	1,415	—	565	41.7	478	51.7	474	55.1	295	113.0	11.39
通期	3,047	—	1,266	19.7	1,092	22.8	1,083	23.9	675	42.8	25.98

（注）1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 2022年5月期より「収益認識に関する会計基準」の適用があり、上記業績予想は同基準適用後の数値であります。同基準の適用により、売上高は対前期増減率を記載しておりません。

3. EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年5月期1Q	25,947,200株	2021年5月期	25,910,400株
② 期末自己株式数	2022年5月期1Q	42株	2021年5月期	42株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年5月期1Q	25,937,897株	2021年5月期1Q	22,710,217株

（注）当社は、2020年12月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、「期中平均株式数」を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.2「1.当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料の入手方法）

四半期決算補足説明資料につきましては、TDnet及び当社ウェブサイトに掲載する予定です。

（その他特記事項）

なお、当社は、持株体制の移行に伴い、2021年9月1日付において商号を株式会社フィードフォースからフィードフォースグループ株式会社に変更しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	1
(1) 経営成績に関する説明	1
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	4
四半期連結損益計算書	4
第1四半期連結累計期間	4
四半期連結包括利益計算書	5
第1四半期連結累計期間	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	6
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況が続きました。持ち直しの動きが見られるものの、依然として先行きが不透明な状況にあります。その一方で、当社の主要な事業領域であるインターネット広告市場の2020年の市場規模は、前年比5.9%増の2兆2,290億円となり、総広告費は前年比11.2%減となるなかでも、デジタル・トランスフォーメーション（DX）の加速も伴い、成長を続けています（出典：株式会社電通「2020年日本の広告費」）。

このような経済状況のもと、当社では、「『働く』を豊かにする。～B2B領域でイノベーションを起こし続ける～」をミッションに掲げ、情報流通の最適化と効果的な広告運用サービス等を提供してきました。データフィード構築のために当社がこれまでに蓄積した膨大な商品・案件等のデータとその変換・更新ノウハウをもとに、企業が持つ情報を最適な形に加工し、ターゲットユーザーに対して適切な情報を適切なタイミングで適切なデバイスに提供することを実現してまいりました。加えて、当社は各デジタルプラットフォームと良好なリレーションを構築しており、その関係を活かし当社の複数のサービスを連携させることで、企業の顧客開拓支援にとどまらずユーザーとの継続的な関係強化に資する包括的な支援に努めてまいりました。

また、2021年9月1日付で持株会社体制へ移行するにあたり、2021年6月1日に当社の完全子会社として、株式会社フィードフォース分割準備会社（2021年9月1日付で「株式会社フィードフォース」に商号変更。）及び株式会社ソーシャルPLUSを設立いたしました。

この結果、当社グループ（当社及び当社の関係会社）の当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高672,558千円、EBITDA（営業利益+減価償却費+のれん償却額）293,021千円（前年同期比72.7%増）、営業利益250,629千円（前年同期比95.7%増）、経常利益251,125千円（前年同期比108.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益154,454千円（前年同期比454.1%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

(プロフェッショナルサービス事業)

主としてエンタープライズを中心とした顧客に対して、リスティング広告をはじめとするインターネット広告運用代行事業やマーケティング支援を行う「Anagrams」、プラットフォーム等への広告運用受託サービス

「Feedmatic」、個々のニーズに応じたデータフィードの構築サービス「DF PLUS」、サテライトサイトを生成・自動運用するSEO支援サービス「Contents Feeder」を提供しております。

当第1四半期連結累計期間においては、大型案件の広告出稿額の減少があったものの、「Feedmatic」において既存顧客の売上単価が増加いたしました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高503,382千円、セグメント利益227,640千円（前年同期比111.3%増）となりました。

(SaaS事業)

ECサイトの商品情報を元に自動で最適化した広告を出稿することができる広告配信サービス「EC Booster」、データフィードの作成、管理及び最適化を広告担当者自身で行うことができるデータフィード統合管理サービス

「dfplus.io」、並びにSNS登録情報を利用したWebの会員登録・ログインやダイレクトメッセージ送信による顧客リーチのサポートサービス「ソーシャルPLUS」を提供しております。

当第1四半期連結累計期間においては、主に「dfplus.io」及び「ソーシャルPLUS」での新規案件の獲得及び売上単価の増加により、順調に売上げを積み上げました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高166,750千円、セグメント利益62,291千円（前年同期比144.2%増）となりました。

(DX事業)

DX事業では、「テクノロジーを使ったデジタルアセット活用の基盤づくり」を通じて企業のDXを支援する新サービスを展開しております。

当第1四半期連結累計期間においては、Shopifyを基盤としたサイト構築、Shopify向けアプリの開発など、新事業の開発及び投資を行ってまいりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高2,425千円、セグメント損失39,302千円（前年同期はセグメント損失5,187千円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は6,203,227千円となり、前連結会計年度末に比べ264,280千円減少いたしました。

（流動資産）

当第1四半期連結会計期間末の流動資産合計は、4,597,194千円となり、前連結会計年度末に比べ318,218千円減少いたしました。これは主に、現金及び預金が121,927千円、売掛金が168,151千円、前渡金が29,837千円それぞれ減少したことによるものであります。

（固定資産）

当第1四半期連結会計期間末の固定資産合計は、1,606,033千円となり、前連結会計年度末に比べ53,938千円増加いたしました。これは主にのれんが11,783千円、顧客関連資産が27,350千円減少した一方、投資その他の資産が93,337千円増加したことによるものであります。

（流動負債）

当第1四半期連結会計期間末の流動負債合計は、1,902,816千円となり、前連結会計年度末に比べ352,193千円減少いたしました。これは主に買掛金が94,946千円、賞与引当金が31,569千円減少したことによるものであります。

（固定負債）

当第1四半期連結会計期間末の固定負債合計は、1,731,540千円となり、前連結会計年度末に比べ79,414千円減少いたしました。これは主に繰延税金負債が5,585千円増加した一方、長期借入金が85,000千円減少したことによるものであります。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、2,568,870千円となり、前連結会計年度末に比べ167,328千円増加いたしました。これは主に利益剰余金が154,454千円、新株予約権が11,599千円増加したことによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年5月期の連結業績予想につきましては、2021年6月30日の「2021年5月期 決算短信」で公表いたしました業績予想に変更はありません。

現在の当社グループの連結業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づいて可能な限り織り込んだものとなります。新型コロナウイルス感染症拡大による影響については、依然として先行きが不透明な状況が続いておりますが、当社グループの事業活動は概ね正常化しており、現時点においては重要な影響はないものと判断しております。今後の市場の動向に応じて見通しに変更となる場合は、適時に開示してまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,193,056	3,071,128
売掛金	1,312,721	1,144,570
前渡金	375,146	345,308
その他	43,814	45,809
貸倒引当金	△9,325	△9,622
流動資産合計	4,915,413	4,597,194
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	29,029	28,090
その他（純額）	14,558	15,233
有形固定資産合計	43,588	43,323
無形固定資産		
のれん	404,577	392,793
顧客関連資産	939,016	911,666
無形固定資産合計	1,343,594	1,304,460
投資その他の資産		
投資有価証券	14,073	110,240
繰延税金資産	72,778	70,171
その他	78,060	77,837
投資その他の資産合計	164,912	258,249
固定資産合計	1,552,094	1,606,033
資産合計	6,467,507	6,203,227
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,532,942	1,437,995
1年内返済予定の長期借入金	170,000	170,000
賞与引当金	59,884	28,314
その他	492,184	266,506
流動負債合計	2,255,010	1,902,816
固定負債		
長期借入金	1,510,000	1,425,000
繰延税金負債	300,955	306,540
固定負債合計	1,810,955	1,731,540
負債合計	4,065,965	3,634,357
純資産の部		
株主資本		
資本金	465,203	466,270
資本剰余金	1,357,656	1,358,723
利益剰余金	543,918	698,373
自己株式	△48	△48
株主資本合計	2,366,729	2,523,319
新株予約権	32,569	44,168
非支配株主持分	2,243	1,382
純資産合計	2,401,542	2,568,870
負債純資産合計	6,467,507	6,203,227

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年6月1日 至 2020年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2021年8月31日)
売上高	551,148	672,558
売上原価	203,847	192,641
売上総利益	347,300	479,916
販売費及び一般管理費	219,241	229,286
営業利益	128,059	250,629
営業外収益		
受取利息	9	12
助成金収入	1,140	3,920
その他	964	1
営業外収益合計	2,114	3,934
営業外費用		
支払利息	4,146	3,435
その他	5,805	2
営業外費用合計	9,952	3,438
経常利益	120,220	251,125
特別損失		
投資有価証券評価損	-	8,936
特別損失合計	-	8,936
税金等調整前四半期純利益	120,220	242,188
法人税、住民税及び事業税	49,793	80,401
法人税等調整額	12,283	8,193
法人税等合計	62,077	88,594
四半期純利益	58,142	153,594
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	30,270	△860
親会社株主に帰属する四半期純利益	27,872	154,454

（四半期連結包括利益計算書）
（第1四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 2020年6月1日 至 2020年8月31日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2021年6月1日 至 2021年8月31日）
四半期純利益	58,142	153,594
四半期包括利益	58,142	153,594
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	27,872	154,454
非支配株主に係る四半期包括利益	30,270	△860

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動）

特定子会社の異動には該当していませんが、当第1四半期連結会計期間において、持株会社体制への移行準備の一環として、2021年6月1日付で株式会社フィードフォース分割準備会社（2021年9月1日付で「株式会社フィードフォース」に商号変更しております）及び株式会社ソーシャルPLUSを設立し、連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、従来は、プロフェッショナルサービス事業において外注が必要となる一部の取引について、顧客から受け取る対価の総額で収益を認識しておりましたが、顧客への財又はサービスの提供における当社の役割が代理人に該当する取引については、顧客から受け取る額から外注費等に支払う額を控除した純額で収益を認識する方法に変更しております。なお、プロフェッショナルサービス事業における広告運用代行収益について、従来より、顧客から受け取る対価の総額から広告媒体に対する支払額を差し引いた純額で収益を認識しておりましたが、顧客への財又はサービスの提供における役割（本人又は代理人）を判断した結果、当第1四半期連結会計期間の期首以降においても純額で収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、従前の会計処理と比較して、当第1四半期連結累計期間の売上高及び売上原価は28,359千円減少しておりますが、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益には影響はありません。また、利益剰余金期首残高に与える影響はありません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することにしました。これによる影響はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

- I 前第1四半期連結累計期間（自 2020年6月1日 至 2020年8月31日）
 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	プロフェッショナルサービス事業	SaaS事業	DX事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	411,846	139,301	—	551,148	—	551,148
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	4,660	—	4,660	△4,660	—
計	411,846	143,961	—	555,808	△4,660	551,148
セグメント利益又は損失 (△)	107,743	25,503	△5,187	128,059	—	128,059

- (注) 1. セグメント間取引消去によるものであります。
 2. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

- II 当第1四半期連結累計期間（自 2021年6月1日 至 2021年8月31日）
 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	プロフェッショナルサービス事業	SaaS事業	DX事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	503,382	166,750	2,425	672,558	—	672,558
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	6,690	—	6,690	△6,690	—
計	503,382	173,440	2,425	679,248	△6,690	672,558
セグメント利益又は損失 (△)	227,640	62,291	△39,302	250,629	—	250,629

- (注) 1. セグメント間取引消去によるものであります。
 2. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(重要な後発事象)

(持株会社体制への移行)

当社は、2021年6月18日開催の取締役会において承認された、当社と当社100%子会社2社との吸収分割契約に基づいて、2021年9月1日付で吸収分割を実施し、持株会社体制へ移行いたしました。

また、同日付で、当社の商号をフィードフォースグループ株式会社に変更するとともに、株式会社フィードフォース分割準備会社の商号を株式会社フィードフォースに変更しております。

1. 持株会社体制への移行目的

当社は「『働く』を豊かにする。～B2B領域でイノベーションを起こし続ける～」というミッションを掲げ、企業の生産性を向上させるサービス・プロダクトづくりを通じて豊かな働き方を実現すべく、企業のデジタルマーケティング支援をビジネスの主軸とし、顧客属性に応じたサービスを提供しております。

顧客へのさらなる付加価値の訴求に向け、グループ経営の機動性・柔軟性のさらなる高度化、新規事業開発・推進並びにデジタルプラットフォームをはじめとしたパートナーとの資本業務提携・アライアンス等を促進するため、グループ戦略機能を担う持株会社と戦略を実行する事業会社を分離し、持株会社によるグループ全体最適視点での戦略立案や経営資源配分、事業会社における迅速な意思決定を通じた事業推進が必要と判断し、持株会社体制へ移行することを決定いたしました。

なお、持株会社体制への移行は、当社を分割会社とし、2021年6月1日付けで新たに設立した完全子会社である株式会社フィードフォース分割準備会社及び株式会社ソーシャルPLUSを承継会社とする吸収分割（簡易吸収分割）により行われております。

2. 持株会社体制への移行に伴う分割当事会社の概要

(1) 当社と分割準備会社間での会社分割

① 分割当事企業及び対象となる事業の内容

(イ) 分割会社

株式会社フィードフォース（当社）

(ロ) 承継会社

株式会社フィードフォース分割準備会社

(ハ) 対象となる事業の内容

当社のプロフェッショナルサービス事業（Feedmatic、DF PLUS、Contents Feeder）、SaaS事業の一部（EC Booster、dfplus.io）及びDX事業

② 吸収分割効力発生日

2021年9月1日

③ 会社分割の方式

当社を分割会社とし、2021年6月1日付けで新たに設立した完全子会社である株式会社フィードフォース分割準備会社を承継会社とする吸収分割（簡易吸収分割）を行いました。

なお、本件会社分割は会社法第784条第2項に定める場合（簡易吸収分割）に該当するため、株主総会による吸収分割契約の承認を得ることなく行われております。

④ 会社分割の効力発生後企業の名称

株式会社フィードフォース（2021年9月1日付で「株式会社フィードフォース分割準備会社」より商号変更）

(2) 当社とソーシャルPLUS間での会社分割

① 分割当事企業及び対象となる事業の内容

(イ) 分割会社

株式会社フィードフォース（当社）

(ロ) 承継会社

株式会社ソーシャルPLUS

(ハ) 対象となる事業の内容

当社のSaaS事業のソーシャルPLUS

② 吸収分割効力発生日

2021年9月1日

③ 会社分割の方式

当社を分割会社とし、2021年6月1日付けで新たに設立した完全子会社である株式会社ソーシャルPLUSを承継会社とする吸収分割（簡易吸収分割）を行いました。

なお、本件会社分割は会社法第784条第2項に定める場合（簡易吸収分割）に該当するため、株主総会による吸収分割契約の承認を得ることなく行われております。

④ 会社分割の効力発生後企業の名称

効力発生後の企業の名称変更はありません。

3. 会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 2019年1月16日）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日）に基づき、共通支配下の取引として処理する予定であります。

(資本金の減少)

当社は、2021年8月25日開催の第16期定時株主総会において、資本金の額の減少について決議し、2021年9月1日にその効力が発生しております。

1. 資本金の額の減少の目的

資本政策の柔軟性及び機動性を確保するため、財務戦略の一環として実施いたしました。

なお、本件は会社法第447条第1項の規定に基づき、資本金の額の減少を行い、同額をその他資本剰余金へ振り替えるものであり、当社の純資産額に変更はございません。

2. 資本金の額の減少の要領

(1) 減少する資本金の額

456,270,400円

(2) 増加するその他資本剰余金の額

456,270,400円

発行済株式総数の変更は行わず、減少する資本金の額の全額をその他資本剰余金に振り替えるものであります。